

# 木もれ陽

駒場苑公式ホームページの「グループホーム日記」に日々の様子をアップしています。どうぞご覧ください。



## こまばの暮らし



↑梅を見に羽根木公園へ

ホームの目の前に駒場のバス停があります。最近、バスで色々な所に行けることを発見しました。「松陰神社」や「羽根木公園」等、ちょっとした遠出を気軽に楽しんでいます。



←駒場野公園の焼芋大会へ。芋の引換券は2枚しかなかったので、おにぎりを作って出掛けました。地域に出て季節感を味わいました。



←ボランティアの方からご寄付頂いたとても立派な七段飾りの雛人形を飾りました。ホームがパッと華やぎました。



↑節分の鬼に変身中。塗ってくれているのはご利用者さんです。



### アートの広場 in こまば

臨床美術士の資格を持つ職員が『臨床美術』を行いました。臨床美術とは、絵やオブジェ等の作品を楽しみながら作ることに寄って脳を活性化させ、高齢者の介護予防や認知症の予防・改善が期待できる芸術療法（アートセラピー）のひとつです。



### 【お知らせ】

4月3日(火)

目黒川お花見会(ドン・キホーテ主催)

ご家族も是非ご参加下さい。今回は歩いていける方は歩いて行こうと思っています。

5月12日(土) 昼食会 in こまば

昼食時に地域に開かれた催し物を企画中です。

## 職員インタビュー

# こまばのこの人



勢村 美由樹 (せむら みゆき) 平成29年9月入職

### ○なぜ介護の仕事を選んだんですか？

自分が介護の世界に入るなんて昔では想像もできませんでした。私は初孫で生まれたからか祖父母・両親の期待も強く育てられ、責任感が強い反面、曲がったことが嫌いで、中学・高校の頃は社会に対してかなり反抗的でした。建前と本音を使い分ける大人が許せないみたいな(笑)。また、何かを作ったりデザインしたりする事が自分に向いていると思っていたので服飾の大学で3年間学んだ後、大学の研究室で助手として働いていました。私が子育てしていた頃に、私にとっても優しくしてくれていた祖母が認知症になってしまったんです。離れに住んでいる両親が面倒をみていましたが、昼夜逆転・徘徊・自宅の階段から転げ落ちたりと本当に大変そうで、両親はみるみるゲッソリしていきました。私は自分の家庭があり手伝えなかったのですが、将来の事を考えると「義理の母に対して両親のように一生懸命できるのかしら」と不安が先行してヘルパー講習に行ったのがきっかけです。

### ○介護の世界への転職に抵抗はありましたか？

当時、マックでパートをしていたのですが、人に自分の気持ちを伝えたりすることが苦手だった私が、業務的に親切な態度で表す事を繰り返すうちに感謝されることに楽しみを見出すようになった事も大きいです。ヘルパー講習の内容もすごく興味深かったです。

### ○介護の楽しさって何ですか？

与えるのではなく、一緒に居て通じ合える瞬間に快感を覚えてしまったみたいです。専門職としてご家族とは違った「私達だから可能」な支援ができる喜びもあります。

### ○グループホームこまばに来てどうですか？

とても面白いです。職員が敢えて手を出さずに見守る事で、ご利用者が自分で行動し、結果としてそれぞれの役割を持って安心して暮らしている、と感じます。

### ○臨床美術の資格を持っていますよね。

プライベートでも「こまば」でも活かしていきたいです。駒場苑グループで定期的に機会を設けたりもしたいです。対象者が「認められた」と思ってくれたらこんな幸せなことはありません。良いストレス(刺激)を感じて頂けたらと思います。職員のストレスケアにも有効なので色々取り組んでいきたいです。

